

令和3年度（2021年度）活動記録（No.21）

# 非核・平和はみんなの願い

【令和3年4月～令和4年3月】



【「西東京市平和の日」パネル等展示の様子】

編集 非核・平和をすすめる西東京市民の会

発行 西東京市

# 目 次

非核・平和都市宣言	1
西東京市平和推進に関する条例	2
非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ	3
非核・平和をすすめる西東京市民の会の組織	4
2021年度の活動を振り返って	5
1年間の活動	8
西東京市平和の日事業	9
非核・平和学習会	10
常設展示	15
資料1 夏休み平和映画会 上映作品一覧	16
資料2 これまでに発行された戦争体験記一覧	17
資料3 令和3年度 西東京市平和事業関係予算	19

## 非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち  
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している  
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を  
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを  
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを  
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを  
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを  
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを  
世界に広く訴えるために  
非核・平和都市 西東京市の  
宣言とする。

平成14年1月21日  
西 東 京 市

# ○西東京市平和推進に関する条例

平成13年1月21日  
条例第2号

## (目的)

第1条 この条例は、西東京市（以下「市」という。）における平和行政の基本原則並びに平和事業の推進及び平和の日の制定について定め、もって市民の豊かで平和な生活の維持向上に資することを目的とする。

## (基本原則)

第2条 市は、世界の恒久平和を願う市民の精神に基づき、平和施策を市民の協力と参加のもとに推進する。

## (平和事業の推進)

第3条 市は、次に掲げる事業の推進に努めるものとする。

- (1) 平和の意義の普及及び平和意識の高揚
- (2) 平和に関する情報の収集及び提供
- (3) 平和に関する各種行事の開催及び後援
- (4) 平和に関する他の諸都市との交流
- (5) 前各号のほか、平和施策の推進に関し必要な事業

## (平和の日)

第4条 4月12日は、西東京市平和の日とする。

2 市は、西東京市平和の日に、平和の意義を確認し、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施する。

## (委任)

第5条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

## 附 則

この条例は、平成13年1月21日から施行する。

# 非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ

## 1 名称

この会の名称を、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」と言います。

## 2 趣旨

旧田無市は、1984年8月6日、「非核・平和都市宣言」を行いました。

旧保谷市は、1982年10月1日、「憲法擁護・非核都市の宣言」を行いました。

西東京市は、この二つの宣言の趣旨に則り、2002年1月21日「非核・平和都市宣言」を行いました。

この西東京市の宣言の趣旨を、西東京市とともに市民一人ひとりに広め、平和な世界への実現に向け、思想、信条の違いを越えて、世界中の人々と手をつなぎ合い、市民の創意工夫でいろいろな活動を行います。

## 3 事業、活動の進め方

会の事業、活動は、市民が主体となって、西東京市と提携しながら、市の非核・平和事業予算をもとに進めていきます。

## 4 世話人

会の趣旨に賛同する市民(在勤、在学者を含む)は、随時世話人となることができます。ただし、個人参加とします。

## 5 役員

会の代表として、会長1名をおきます。

会長を補佐するために、副会長をおきます。

事業の推進を図るために、事務局長及び若干名の常任世話人をおきます。

常任世話人の中に、広報、庶務などの担当をおくことができます。

## 6 任期

役員任期は1年とし、再任を妨げないこととします。

## 7 会議

世話人会は、年2回以上開き、役員を選出し、事業計画、予算計画を決定します。常任世話人会は、事業、活動を推進します。

## 8 市民集会

全市民を対象にした集会を、年1回以上開きます。

附則 2001年7月7日決定  
2003年6月7日一部改正

## 非核・平和をすすめる西東京市民の会の組織

会 長	山本 恵司		
事務局長	藤川 利子		
世 話 人	内田 直之	柏木 由美	菊池 美千代
	岸野 有美子	小林 悟	小林 力
	坂口 光治	笹井 春季	鈴木 治夫
	高橋 良彰	武田 五郎	地引 正雄
	寺本 匡利	都丸 哲也	富岡 いづみ
	中村 雅実	並木 和子	穂坂 晴子
	益留 俊樹	松村 哲雄	宮崎 進一
	村瀬 敬子	安井 精二	山口 あずさ
	山崎 巖	横山 年三	渡部 國夫

(五十音順)

### 世話人になりませんか

「非核・平和をすすめる西東京市民の会」は、平和を愛する市民の集いです。市民が主体となって発想した企画を、行政と一体になって実施しています。

自分自身の発案したプランが事業活動として実現し、平和に貢献することができます。

西東京市の非核・平和都市宣言の「必要なのは笑顔での話し合い、人類愛と思いやり」をモットーに、更に大きく輪を拡げていきたいと思っております。戦争を知らない世代からの斬新でユニークなアイデアも期待しております。ご希望の方は、協働コミュニティ課までお問い合わせください。

## 2021 年度の活動を振り返って

2021 年度の事業は、新型コロナ感染症の感染拡大に伴い、4月の西東京市平和の日事業、3月12日に行われた非核・平和学習会を除き、ほぼすべての事業が中止などの影響を受けました。

コロナ感染拡大は一昨年以上の感染拡大でこの冬の感染爆発は恐ろしいほどの急カーブを描き、2022年3月現在も高止まりの感染が継続しています。確実に新たな活動スタイルの模索を行わなくてはならない時期に来ています

まず2021年「西東京市平和の日」の催しも、パネル展示のみに変更して開催されました。その後の事業(広島平和の旅・夏休み平和映画会・ピースウォーク)も中止となりました。定例の会議室での会議も2021年に入り断続的に行うなどメールでの連絡などで書面会議を取り入れたりして進めていくしかありませんでした。

この世界中に広がるコロナ禍がいつまで続くのか、予想もできない状況が続いています。来年度の事業へも影響があらうかと思えます。

そして2022年2月ロシアのウクライナ侵攻が起こり、連日テレビ画面でミサイルが高層の建物を破壊している画面が流れています。77年前の日本はあのように都市が破壊され空襲で多くの方が死んでいました。温故知新という言葉がありますが、歴史に学びながら新しい平和を希求する知恵と行動が必要とされています。田無駅北口に平和のリングが設置されています。多くの市民の方が何気なく通過していると思いますが、リングの太さは 過去～現在～未来の3段階の太さになっていて未来の部分は一番細くなっています。不確定な未来の平和は心細いという意味があるそうですが、皆さんとの絆で太く、強くしていきましょう。

西東京市の非核・平和事業も21年となりました。田無、保谷の時代も入れますと40年余り市民参加による自治体の非核・平和事業を続けてきています。下記に追加資料として簡単に振り返っておきますのでご一読ください

### ○1980年代、田無市・保谷市の時代に宣言を行い、両市とも市民参加で宣言事業をすすめました。

西東京市になる前、田無市、保谷市が宣言を行ったのは1980年代初頭です。この頃、世界に7万発もの核兵器が米ソを中心に各地に配備されていまして、世界はまさに一触即発の、人類滅亡の危機の中に追い込まれていきました。「地球の破滅」「核戦争3分前」と新聞などに書かれています。

この頃、ヨーロッパでは数十万人規模での核兵器反対の集会が連日開かれました。そのような中から「デモだけでは、核戦争は無くせない」と自治体の連帯を通して核廃絶の運動も提起されていきました。1980年11月にイギリス、マン

チェスター市で「核の配備と購入を行わない」という決議を挙げたのです。そしてこの決議は「我々（マンチェスター市）だけでは、ほとんど意味を持たない。イギリスの全自治体が同様に核の配備と購入を行わないと宣言することによって核廃絶は進む」と他の自治体も非核宣言をすることを呼びかけました。この呼びかけに、世界中の自治体が応え「非核・平和宣言」はまたたくまに世界中に広がりました。

日本でも同様に多くの自治体が「非核・平和都市宣言」を行い、自治体を中心にして核廃絶の動きを加速させていきました。

田無市も保谷市も「宣言」行いました。田無市は1984年8月6日に「非核・平和都市宣言」を、保谷市は1982年10月1日「憲法擁護・非核都市の宣言」を行いました。

宣言当初から、田無市は「非核・平和をすすめる田無市民の会」（会長・寺村輝夫、事務局長・鈴木治夫）が、保谷市は「護憲平和を守る保谷市民の会」（会長・城加秀治）が、それぞれ市民参加での宣言事業を進めていきました。保谷市は、日本非核自治体宣言協議会が結成された当初は協議会の副会長をしていました。

#### ○核兵器禁止条約（2020年1月22日発効）

この非核自治体の運動は、世界に広がりました。現在は、非核自治体協議会の動きから、平和首長会議も生まれ、世界の8,065都市が加盟し、日本では西東京市を含め1,736の都市が加盟しています（※2022年3月1日時点）。

そして、世界から核兵器を無くしていこうという初めての国際条約である「核兵器禁止条約」が2021年1月22日50か国の批准に達し発効しました。しかし残念ながら日本は参加していません。

広島に核兵器が落とされてから76年の歳月が流れました。あと少しで1世紀が過ぎていきます。現在もなお世界中には1万4千発も核兵器が配備されており、誰かがボタンを押せば地球は滅びる状況が続いています。

#### ○非核・平和都市宣言は、核や戦争を無くすことが目的

「西東京市平和の日」（「西東京市平和推進に関する条例」）、非核・平和事業は市民参加で

西東京市の宣言も他の自治体の宣言と同様「武器をなくすこと、核兵器をなくすこと、地球上から戦争をなくすこと」を目的としています。

いろいろな事業は、この宣言の目的を実現させるための一つの方法です。単にいろいろな事業をすることが目的ではありません。

西東京市の非核・平和事業は、「西東京市平和推進に関する条例」に基づいて進められています。この条例は西東京市の誕生の日、2001年1月21日に条例第2号として定められたものです。



西東京市誕生と共に条例第2号として定められたこの条例は、合併以前の1995年に田無駅の北口再開発により、北口ロータリーに平和のリングの設置、非核・平和都市宣言文の設置、田無戦災記念碑の設置と併せて「田無市平和推進に関する条例」と定められたものです。この条例には、4月12日を「田無市平和の日」と定め、その年から毎年、その日は爆撃などで亡くなった多くの方々の慰霊の催しを、被災した田無駅北口の地(アスタビル)にて開催してきています。

この条例の特徴の一つは、「市民の協力と参加」と「市民参加」を明示していることです。田無市、保谷市での方法を西東京市となっても継続して市民参加での事業の進め方をしています。

### ○市民の公募による「宣言文」

西東京市の非核・平和都市宣言の素晴らしい点は、いくつかありますが「宣言文」もその一つです。

田無市と保谷市には、それぞれ非核・平和宣言がされていましたが、合併に伴い宣言は無くなりました。ですからこの会の結成の時にはまだ西東京市としての宣言は行われておりませんでした。西東京市の宣言は市民の手作りで、との願いから、市民参加で作成することとなり、「西東京市平和都市宣言市民委員会」が市民10名で合併した年の8月20日に設置されました。市民委員会で宣言文を市民から公募しますと、わずか一ヶ月の間に58作品が寄せられました。

市民委員会の中で議論して、公募作品の中から2作品を12月7日に市長に報告しました。そして、翌2002年1月21日の市制施行一周年に、市長に報告した作品の中の一つである現在の宣言文が、西東京市の「非核・平和都市宣言」となりました。宣言文の作成過程については、市民委員会からの報告書『「非核・平和都市宣言」に込められた思い』が発行されているので、詳しくはそちらをお読みください。

非核・平和をすすめる西東京市民の会

## 2021年度 非核・平和をすすめる西東京市民の会 1年間の活動

月 日	内 容
4月8～12日	平和の日事業（アスタセンターコート） 西東京市戦災パネル・1トン爆弾模型の展示
4月19日	第1回常任世話人会 平和事業の話し合いについて検討
5月15日	平和事業についての話し合い（書面開催） 「非核・平和をすすめる西東京市民会申し合わせ」に基づいた、全市民を対象とした市民集会
5月25日	第2回常任世話人会（書面開催） 今年度の事業についての検討
6月22日	第3回常任世話人会 夏休み平和映画会、非核・平和パネル展についての検討
8月20日	第4回常任世話人会（書面開催） 会長引継ぎについて、映画会、ピースウォーク、非核・平和学習会の実施の検討
10月4日	第5回常任世話人会 映画会、ピースウォーク、非核・平和学習会の実施の検討・確認
10月20日	第6回常任世話人会 映画会、非核・平和学習会についての検討・確認
11月24日	第7回常任世話人会 映画会の確認、非核・平和学習会について検討
12月21日	第8回常任世話人会 映画会のタイムスケジュール、非核・平和学習会についての確認
1月25日	第9回常任世話人会 映画会、非核・平和学習会の開催方法等について確認 西東京市平和の日について、今年度の活動記録について
2月14日	第10回常任世話人会（書面開催） 非核・平和学習会のタイムスケジュール、平和の日について
3月12日	非核・平和学習会 高瀬毅氏講演会：「わが事」として考える戦争と平和～被爆地・長崎に生まれて～
3月22日	第11回常任世話人会 西東京市平和の日事業、次年度事業についての検討

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業

事業名	内 容
非核・平和パネル展	非核・平和に関するパネル等の展示
広島平和の旅	公募市民の方々と広島平和記念式典に参列
夏休み平和映画会	非核・平和に関する映画の上映会の開催 (広島平和の旅に参加した市民による報告会も同時に開催)
ピースウォーク	市内外の戦争に関する遺跡等の訪問

## 西東京市平和の日事業

日にち	4月8日(木)～12日(月)
場所	アスタビル2階センターコート
内容	西東京市戦災パネル・1トン爆弾模型の展示

西東京市は、平成13年1月21日の誕生と同時に「西東京市平和推進に関する条例」を制定し、4月12日を「西東京市平和の日」と定めています。

西東京市周辺では、昭和19年11月から翌年8月までに、十数回に及ぶ空襲の被害を受けました。それは当時、近隣市である武蔵野市に、アメリカ空軍の攻撃目標となった巨大な軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」があり、その工場を狙った流れ弾によるものです。なかでも、昭和20年4月12日、アメリカ空軍のB29爆撃機が投下した多数の1トン爆弾によって、西東京市内でも130名余りの方々の犠牲者が出ました。特に被害が大きかった田無駅北口周辺では、50数名の方々が防空壕などで死亡し、多くの家屋が全壊しました。

そこで、戦争の悲劇を忘れないために、西東京市は毎年4月12日を中心に様々な行事を実施し、平和の意義の確認や、平和意識の高揚を図る取り組みを行っています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、今年度は、アスタビルセンターコートで西東京市戦災パネルや1トン爆弾模型の展示を2年振りに行ったほか、市ホームページ等により、非核・平和をすすめる西東京市民の会と市長によるメッセージ動画を配信いたしました。

### 「西東京市戦災パネル」等の展示

4月8日(木)～12日(月)

午前10時～午後9時(12日(月)は午後4時まで)



【西東京市戦災パネルの展示】



【1トン爆弾模型の展示】

## 非核・平和学習会

日時 3月12日(土) 午後2時～午後4時  
場所 コール田無 イベントルームA・B  
内容 講演会 「わが事」として考える戦争と平和～被爆地・長崎に生まれて～  
※動画配信 令和4年3月30日から  
講師 高瀬 毅 氏 (ノンフィクション作家、ジャーナリスト)

「非核・平和学習会」では、毎年、非核・平和をテーマに講師を招き、講演会を実施しています。

今年度は、長崎出身のノンフィクション作家・ジャーナリストとして活躍されている高瀬毅様を講師に迎え、非核・平和のために私たち一人ひとりができることについてご講演いただきました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客により動画を撮影し、講演の様子は後日オンラインで配信することとなりました。



### 【高瀬 毅 氏 プロフィール】

1955年長崎市生まれ。被爆2世。  
両親が被爆者。

明治大学政治経済学部卒業後、ニッポン放送入社。記者・ディレクターとして活躍。87年退社。出版社勤務後89年からフリーランスとして活躍。

### 《メディア》

- ・テレビ朝日「やじうまプラス」コメンテーター
- ・文化放送コメンテーター
- ・j-wave「ジャム・ザ・ワールド」ナビゲーター
- ・NHK・BS「週刊ブックレビュー」書評コメンテーターなど、テレビ・ラジオ出演多数

## 講演の内容

### ○はじめに ～ロシアのウクライナ侵攻について～

今回、講義タイトルを「わが事こととして考える戦争と平和」にしたのは、日本は長い平和が続いたために、今こそ「わが事」として戦争を考える必要があると思ったからです。

しかし、タイトルを付けた昨年とはうって代わって世界の様相が一変しました。私の仕事の一つとして6年ほど続けているある文章講座で「ウクライナ」のことを話すと、皆真剣に身を乗り出します。今、世界中がその様な状況になっているのだと思います。

私は10年前、チェルノブイリ原発事故の放射能汚染のその後の状況についてウクライナに取材に行ったことがあります。その時滞在した首都キエフの街は本当に奇麗でした。そこがいま攻撃され、荒廃していくのかと思うと心が痛みます。

いま私が一番に恐れているのは、いつか核が使われるのではないかということです。今は戦術核よりもっと極地的に使う小型核というものが開発されています。しかし私たちは、動揺して極端な方向に走らないよう冷静に情報に接し、唯一の戦争被爆国の国民としてノーと言いつけていく必要があると思います。

### ○これまでにあった核戦争の危機

これまでも核の危機は何度もありました。「核の終末時計」というものがあります。これは科学者達が話し合い、地球は今どれくらい破局に向かっているのかというのを時計で象徴的に表しているものです。

しかし、いま最も新しいものは、ウクライナ危機は勘定に入れられていません。入れた場合、破滅まで100秒を切ってもおかしくはありません。

戦後最大の核の危機といえばキューバ危機です。米国のフロリダに近いキューバに核ミサイルを配備しようとしたソ連と、それを阻止したいアメリカのらみ合いが発生しました。1962年10月です。

この時、それぞれ一歩間違えれば核ミサイル発射の引きガネが引かれるかもしれないという事態が発生しています。また、誤った攻撃命令による核戦争一歩手前という事態もありました。

ソ連の機器の故障によるミサイル発射の誤報です。この事態は報告を受けた軍人が冷静に判断し、大事には至りませんでした。システムでは止められなかったという点が恐ろしい部分であるといえるでしょう。



広島・長崎型の核よりも破壊力の大きな核兵器を多くの国が所有している現在、我々は、頭上の剣を支えている糸の細さを意識する必要がありますでしょう。

キューバ危機には外交の余地がありました。しかし、今そのようなことを感じられないことが、ことの深刻さを物語っています。外交は重要です。

### ○戦争をどうやって伝えるか～被爆二世として生まれて～

様々な種類の核兵器が開発されている今、メディアでは恐ろしい言説が飛び交っています。「小型核くらい使ってもよいのでは？」というものです。

一発使ったらどうなるか。それは広島・長崎が教えてくれています。しかし今、被爆者の方がどんどん少なくなっていくにつれ、広島・長崎の「抑止力」が世界に届かなくなってきました。

2世、3世が語り継いでいかなければいけないわけですが、被爆2世というのはとても微妙な立場なわけです。私も2世ですが、子供になかなか体験を話さない被爆者はすくなくありません。子供には、被爆の影響もあるかもしれないと考えて、被爆体験を話さないのです。むしろ孫には話したりします。歳を重ね、やはり次世代に伝えないといけないと考えるからです。また、学校で授業として被爆を学ぶ最近の子供たちの方が、詳しいなんてこともあり得るわけです。熱意を持つ3世、4世にこそ体験を伝えていきたい。我々を取り巻く環境の中にも、彼らに伝えるべきものはあると思います。

伝える方法としては、私としてはメディアに頑張ってもらいたいと思っています。いま既存の報道はすっかり足腰が弱くなってしまいましたが、それでもメディアの力はやはり大きいと思います。

一方で新しい媒体としてSNSなども挙げられます。新しい可能性をどんどん広げて行ってもらいたいですね。

### ○沼田鈴子さんのこと、広島・長崎を世界に伝えるためには

歴史は、時間が経って、新たに発見されていくものです。その一つの例となるのが、被爆体験を語り続けた沼田鈴子さんの体験です。

この方は22歳の時に受けた被爆の傷が元で片足を切断しなくてはならなくなりました。いまのようにバリアフリー化が進んだ社会ではなく、戦後のまだ混乱し、貧しかった時代に、しかも女性が、不自由な暮らしを余儀なくされました。さらに片足がないことを周りに冷やかされながら生きていかなければなりませんでした。しかし被爆して真っ黒に焼けたアオギリから出た芽に感動して、生きようと思ひ直し、その話を語りつづけました。そんな沼田さんを偲んで、アオギリを植樹する運動が全国各地で続けられています。

そんな沼田さんも、初めから語り部を始めたわけではありません。語り始めたのは1982年からです。きっかけとなったのが、アメリカが被爆後の日本で

撮影したフィルムに、沼田さんが映っていることをある人から知らされ、体験を語ることを勧められたことです。

沼田さんがすごいのは、日本人被爆者のことだけでなく、在韓被爆者やアジアの被爆者などとも交流したことです。

なぜ韓国に被爆者がいるのか。それは植民地化していた韓国から労働者として当時日本に働きに連れてこられていて被爆したからです。今も苦しんでいる被爆者が、海外に数多くいます。

沼田さんがなにより凄いのは、旧日本軍がマレーシアでたくさんの住民を虐殺したことを知り、直接現地に謝罪したことです。自分が直接関係していないのに、自分の国の軍隊が起こしたことについて、どうしても謝らないではいられなかったというのです。というのは、マレーシア虐殺事件の軍隊は、沼田さんの故郷、広島にいた軍隊だったからです。沼田さんは同行した他の日本人にも何も言わず、現地の被害者の家族たちの目の前でいきなり謝罪しました。何を言われるかと日本の関係者が身構える中、現地の方は、よく話してくれたと沼田さんの周りに集まり、握手したりして歓迎したそうです。

これは私の想像ですが、沼田さんの真摯な姿勢が、ともに戦争の悲惨さを知る彼らの共感を呼んだのだと思います。私はここに、平和を作るヒントがあると思います。

体験とともに、歴史もまた語りついでいく必要があります。広島・長崎に、なぜ核が落とされたか、それは当時の広島が軍都、長崎が多く軍需工場のある街だったからという側面があります。

もちろんその中にも語り継ぐべき悲惨な体験は多くあります。しかし、戦中、広島、長崎は軍の重要拠点であり、今もなおその名残が各所に残っているのです。なぜ広島、長崎に原爆が落とされたのか。その理由を私たちは事実として知っておく必要があります。

アメリカと戦争に至った経緯についても同様です。当時、満州を取り、日中戦争を起こした日本は、国際社会から孤立します。そのため戦争遂行のための資源をアジア諸国に求めて、侵略していきました。しかし、いずれアメリカがそれを邪魔しようとしてくる。そこで先に手を打っておく必要があるということで行ったのが、米国ハワイの海軍基地を叩く、真珠湾奇襲攻撃でした。つまり、あの戦争は、日中戦争が「主」で、米国との戦争は「従」です。このことを戦後日本人はあまり理解していない可能性があります。なぜアメリカと戦争をしなければいけなかったか、それを理解した上で、原爆を落とされた事実を考えなければいけません。

親しいアジアの人の中に「日本はアジアであれだけのことをやったのだから、日本が原爆を落とされたのは当然だ」と言われたことがあります。大変衝撃的だったのですが、日本に侵略されたアジアの人たちがこのような見方をしていることを忘れてはいけないと思います。アジアに対する侵略の歴史を抜き

に、「広島・長崎」の話だけしても通用しません。ですから私たちは戦争の語り方を変えていく必要があると思います。2世、3世それを引き受けていくのは大変ですが、私は沼田さんのように他の国の被爆者と共に戦争の悲惨さを伝えあい、お互いの体験を理解し、戦争の記憶の足りないところを補完していくことがこれからはとても大事であり、平和構築の方法として可能性があると思います。

#### 講演の動画配信について

今回の非核・平和学習会は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインで配信しています。講演の様子は市HPでご覧いただけますので、下記のURL・QRコードから、是非ご覧ください。

#### 【URL】

[https://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/heiwa/hikaku\\_heiwagakushu.html](https://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/heiwa/hikaku_heiwagakushu.html)

#### 【QRコード】





## 常設展示

西東京市で作成した「西東京市戦災パネル」や戦時中に市内に投下された1トン爆弾模型等を西東京市の郷土資料室において不定期で展示しているほか、戦争遺品等を田無庁舎2階ロビーで展示しています。

### ①「西東京市戦災パネル」、1トン爆弾模型等の展示 ②戦争遺品等の展示

場 所 ① 郷土資料室

② 西東京市役所（田無庁舎）2階 展示スペース

日 時 ① 不定期 午前10時～午後5時

② 常時 午前8時30分～午後5時

内 容 ① 西東京市戦災パネル、1トン爆弾模型等

② 戦争遺品等



【郷土資料室での展示の様子】



【西東京市役所（田無庁舎）での展示の様子】

## 夏休み平和映画会 上映作品一覧

年 度	作品名	監督名
平成 13 年	対馬丸ーさようなら沖縄ー	小林 治
平成 14 年	ホテル	降旗 康男
平成 15 年	月光の夏	神山 征二郎
平成 16 年	戦場のピアニスト	ロマン・ポランスキー
平成 17 年	コルチャック先生	アンジェイ・ワイダ
平成 18 年	あした天気にな〜れ！〜半分のさつまいも〜	中田 新一
平成 19 年	NAGASAKI1945 アンゼラスの鐘	有原 誠治
平成 20 年	夕凧の街 桜の国	佐々部 清
平成 21 年	火垂るの墓	日向寺 太郎
平成 22 年	母べえ	山田 洋次
平成 23 年	TOMORROW 明日	黒木 和雄
平成 24 年	独裁者 The Great Dictator	チャールズ・チャップリン
平成 25 年	黒い雨	今村 昌平
平成 26 年	一枚のハガキ	新藤 兼人
平成 27 年	この子を残して	木下 恵介
平成 28 年	母と暮らせば	山田 洋次
平成 29 年	この世界の片隅に	片渕 須直
平成 30 年	この空の花ー長岡花火物語	大林 宣彦
令和元年	男たちの大和/YAMATO	佐藤 純彌

## これまでに発行された戦争体験記一覧（1）

発行年	書名	発行者等
昭和44年	原爆の記	指田 吾一
昭和47年	保谷の被爆記	郷土史「保谷」発行会
昭和52年	戦争 生き抜いた私たち —寿講座生の手記—	田無市立中央公民館
昭和54年	歴史はとまってしまった —原爆投下の地、広島・長崎からの告発—	自治労田無市職員組合
昭和54年	中島飛行機製作所と田無 —中島航空金属株式会社と田無—	田無市立中央図書館
昭和54年	町を護る—空襲下の田無—	田無市立中央図書館
昭和55年	戦争を伝える 第1集～第18集	田無市立中央公民館 田無市立中央図書館
昭和55年	中島飛行機と田無—戦争を伝える・座談会の記録—	田無市立中央図書館
昭和57年	田無の戦災誌	田無市立中央図書館
昭和57年	五色の日記	小峰順誉（田無総持寺）
昭和57年	仲間につたえる戦争の体験記 —二度と戦争を許さないために—	田無市職員組合
昭和60年	戦時下の絵日記 —ある美術教師の青春—	佐藤多持
昭和63年	被爆者のお話と映画の集い	核戦争の恐ろしさを子どもらに伝える会
平成2年	私達の街にも、戦争があった	田無第一中学校地歴部
平成2年	なつくさ	保谷市戦争体験をつづる会
平成4年	21世紀への伝言 —私の戦争体験記—	保谷市

※ ここに掲載されている本・冊子は、市内図書館等で閲覧することができます。

## これまでに発行された戦争体験記一覧（2）

発行年	書名	発行者等
平成5年	21世紀への伝言—君のまちにも戦争があった—	保谷市
平成6年	田無 非核・平和運動資料集—田無 非核・平和都市宣言十周年記念— 上・下巻	非核・平和をすすめる田無市民の会、田無市
平成6年	戦争体験記	ほうや公民館だより
平成6年	散華乙女の碑	武蔵野女子学院
平成6年	八つ手の盆—田無の戦争体験を語る—	平和観音保存会
平成7年	21世紀への伝言	平和を見つめる田無のつどい実行委員会
平成15年	「平和を考える講座～その時、西東京市では・中島飛行機とのかかわりから考える～」記録集	西東京市芝久保公民館
平成15年	だれが戦争をはじめたの？—小学生からの質問 平和が一番—	村瀬敬子
平成21年	五歳の戦争	横山さよ子
平成21年	西東京市 市民の戦争体験記(一)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市
平成22年	戦中日誌類からみた戦時下の武蔵野女子学院	武蔵野女子学院
平成22年	西東京市 市民の戦争体験記(二)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市
平成23年	西東京市 市民の戦争体験記(三)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市

※ ここに掲載されている本・冊子は、市内図書館等で閲覧することができます。

## 令和 3 年度 西東京市平和事業関係予算

事業名	予算額
西東京市平和の日事業費 講演会講師謝金 35,000 円	35,000 円
広島平和記念式典市民参加事業費 (※) 引率職員旅費等 111,000 円 広島平和記念式典市民参加事業委託料 409,000 円	520,000 円
映画会事業費 (※) 夏休み平和映画会上映委託料 220,000 円 夏休み平和映画会施設使用料 156,000 円	376,000 円
非核・平和学習会事業費 講演会講師謝金 100,000 円	100,000 円
その他の平和事業関係費 手話通訳者謝金 11,000 円 旅費 4,000 円 消耗品費 88,000 円 役務費 13,000 円 入場料 8,000 円 日本非核宣言自治体協議会分担金 30,000 円	154,000 円
合 計	1,185,000 円

(※) 新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業

## 非核・平和はみんなの願い

令和4年3月

編集 非核・平和をすすめる西東京市民の会

発行 西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課  
〒188-8666 西東京市南町五丁目6番13号 田無第二庁舎  
電話：042-420-2821（直通）  
FAX：042-420-2893（共用）  
E-mail：kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp